

CASBEE-建築(新築)2014年版
 (仮称)アジマ倉庫棟 新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.2
Q1 室内環境			0.32					2.0
1 音環境		1.0	0.15					1.0
1.1 騒音		1.0	0.40					
1.2 遮音		1.0	0.40					
1 開口部遮音性能		1.0	0.60					
2 界壁遮音性能		1.0	0.40					
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		1.0	-					
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		1.0	-					
1.3 吸音		1.0	0.20					
2 温熱環境		1.7	0.35					1.7
2.1 室温制御		2.5	0.50					
1 室温		3.0	0.38					
2 外皮性能		1.0	0.25					
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38					
2.2 湿度制御		1.0	0.20					
2.3 空調方式		1.0	0.30					
3 光・視環境		1.9	0.25					1.9
3.1 昼光利用		1.8	0.30					
1 昼光率		1.0	0.60					
2 方位別開口			-					
3 昼光利用設備		3.0	0.40					
3.2 グレア対策		3.0	0.30					
1 昼光制御		3.0	1.00					
3.3 照度		2.0	0.15					
3.4 照明制御		1.0	0.25					
4 空気環境		3.1	0.25					3.1
4.1 発生源対策		4.0	0.50					
1 化学汚染物質		4.0	1.00	内装建材にF☆☆☆☆を使用				
2 物理汚染物質			-					
4.2 換気		2.3	0.30					
1 換気量		1.0	0.33					
2 自然換気性能		3.0	0.33					
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33					
4.3 運用管理		2.0	0.20					
1 CO ₂ の監視		1.0	0.50					
2 喫煙の制御		3.0	0.50					
Q2 サービス性能		-	0.30					2.4
1 機能性		2.6	0.40					2.6
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40					
1 広さ・収納性		3.0	0.33					
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33					
3 バリアフリー計画		3.0	0.33					
1.2 心理性・快適性		2.3	0.30					
1 広さ感・景観		3.0	0.33					
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33					
3 内装計画		1.0	0.33					
1.3 維持管理		2.5	0.30					
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50					
2 維持管理用機能の確保		2.0	0.50					
3 劣化対策			-					
2 耐用性・信頼性		2.8	0.30					2.8
2.1 耐震・免震		3.0	0.50					
1 耐震性		3.0	0.80					
2 免震・制振性能		3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数		2.8	0.30					
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20					
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20					

2.4 信頼性			2.6	0.20			
1	空調・換気設備		3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備		2.0	0.20			
3	電気設備		3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法		1.0	0.20			
5	通信・情報設備	光ケーブルで通信を行う。敷地が道路より高いため浸水の危険性が無	4.0	0.20			
3 対応性・更新性			1.7	0.30			1.7
3.1 空間のゆとり			1.0	0.30			
1	階高のゆとり		1.0	0.60			
2	空間の形状・自由さ		1.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり			2.0	0.30			
3.3 設備の更新性			2.0	0.40			
1	空調配管の更新性		3.0	0.20			
2	給排水管の更新性		1.0	0.20			
3	電気配線の更新性		1.0	0.10			
4	通信配線の更新性		3.0	0.10			
5	設備機器の更新性		1.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.38			2.3
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮		景観へ配慮した外観とした。	4.0	0.40			4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			1.5	0.30			1.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上			1.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性							3.3
LR1 エネルギー			-	0.40			3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制		外壁面、断熱入り金属板や断熱材を施工する。	3.7	0.04			3.7
2 自然エネルギー利用		太陽光発電を設置する。	4.0	0.12			4.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 0.58 住宅(専有部) 0.83	4.0	0.60			4.0
集合住宅以外の評価(3a,3b)		BEI結果 0.58	4.0	1.00			
集合住宅の評価(3c)							
4 効率的運用			2.0	0.24			2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00			
4.1 モニタリング			3.0	0.50			
4.2 運用管理体制			1.0	0.50			
集合住宅の評価							
4.1 モニタリング							
4.2 運用管理体制							
LR2 資源・マテリアル			-	0.30			3.2
1 水資源保護			3.0	0.20			3.0
1.1 節水			3.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70			
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30			
2 非再生性資源の使用量削減			2.7	0.60			2.7
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.11			
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.22			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			1.0	0.22			
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体鉄骨造、仕上げ材 外壁鉄板、内壁PBの仕分け可能	4.0	0.22			
3 汚染物質含有材料の使用回避			5.0	0.20			5.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用		使用材料F☆☆☆	5.0	1.00			
3.2 フロン・ハロンの回避			-	-			
1 消火剤			-	-			
2 発泡剤(断熱材等)			-	-			
3 冷媒			-	-			
LR3 敷地外環境			-	0.30			3.1
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルコスト50%以下	5.0	0.33			5.0
2 地域環境への配慮			2.0	0.33			2.0
2.1 大気汚染防止			-	-			
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.67			
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.0	0.33			
1 雨水排水負荷低減			-	-			
2 汚水処理負荷抑制			-	-			
3 交通負荷抑制			3.0	0.50			
4 廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.50			
3 周辺環境への配慮			2.3	0.33			2.3
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			-	-			
1 騒音			-	-			
2 振動			-	-			
3 悪臭			-	-			
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.67			
1 風害の抑制			-	-			
2 砂塵の抑制			3.0	-			
3 日照障害の抑制			3.0	1.00			
3.3 光害の抑制			1.0	0.33			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			1.0	1.00			
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	-			